

## 会議結果のお知らせ

第1回宮古市林業振興ビジョン策定委員会を次のとおり開催しました。

令和7年1月9日

宮古市林業振興ビジョン策定委員会

- 1 開催日時  
令和6年7月18日（木）11:00～12:00
- 2 開催場所  
市役所2階2-1会議室
- 3 議題
  - (1) 宮古市産業立市ビジョン等の策定方針について
  - (2) 現宮古市林業振興ビジョンの実績検証について
  - (3) その他
- 4 会議の概要  
別添のとおり
- 5 問い合わせ先  
産業振興部 農林課林政係（TEL0193-68-9097）

## 第1回宮古市林業振興ビジョン策定委員会

### 1 出席者（9名）

日下紀子、田島大、中居克広、伊香立司、阿部剛、涌田幸栄、齋藤眞琴、  
三ヶ尻真浩、伊藤嘉奈子

### 2 欠席者（1名）

大塚生美

### 3 事務局出席者（5名）

産業振興部長 岩間 健、農林水産振興次長 飛澤寛一、  
産業振興部農林課長 袈岩邦行、産業振興部農林課林政係長 田屋研二  
同係副主幹 花輪政文

### 4 傍聴者

なし

### 5 議事等

#### (1) 宮古市産業立市ビジョン等の策定方針について

宮古市産業立市ビジョン等の策定方針、策定スケジュール等について、事務局から説明した。

#### (2) 現宮古市林業振興ビジョンの実績検証について

現宮古市林業振興ビジョンの実績検証について、事務局から説明した。

#### (3) その他

宮古市林業振興ビジョン意見提出用紙について、事務局から説明した。  
今後の林業振興ビジョン策定にあたり、意見交換を行った。

質疑応答内容

質問・意見	回答
<p>【 議題(1)「宮古市産業立市ビジョン等の策定方針について」 】                      &lt;質疑なし&gt;</p> <p>【 議題(2)「現宮古市林業振興ビジョンの実績検証について」 】                      &lt;委員&gt;                      現在の各目標の達成度は、令和6年度の目標に対して令和5年度の実績で達成度が示されているということによろしいか。                      令和6年度の実績値は検証としてもらえるのか</p> <p>&lt;委員&gt;                      林業総生産額が令和5年が大きく落ち込んでいる理由はこういった影響があったのか。                      市民所得から推計しているということになっている。木材の素材生産量から推計したものではなく、市民の所得の方から推計したものと考えられる。</p> <p>&lt;委員&gt;                      木材の量、生産量の方が指標としてはわかりやすいのではないか。</p> <p>【 議題(3)「その他」 】                      ・宮古市農業振興ビジョン意見提出用紙について                      &lt;質疑なし&gt;</p> <p>【 意見交換 】                      —提言—</p> <p>&lt;委員&gt;                      ●懸念                      最近、山を手放すとか、「うちの山はどこにあるのだ？」とか、よく聞くことがあるが、山に興味が無いのはすごく寂しい限りである。                      私の場合は、代々続いているので、森林を所有するという事は、それなりのモラルや、責任も必要だと思っている。                      それに引き換え、収入というのが、自分がやらなければ何も無い、持っているだけで何にもならない。</p>	<p>(事務局)                      令和5年度の実績は目安として掲載している。                      令和6年度の実績は策定委員会としての報告としては発出されないものである。</p> <p>(事務局)                      精査が必要である。</p> <p>ビジョンの改定においては。総生産が適正なのかというところをまずもって検証していきたいと思っている。</p> <p>生産量の方が適正と考える。</p>

<p>●問題点</p> <p>①固定資産税 毎年負担になる</p> <p>②森林整備 森林整備しますよと、ただでやってあげますよというけども、森林所有者にはほとんど入ってこない。</p> <p>③相続税 施業が終わった後の責任というのは、持ち主がもつ（ことになる）。 立派な森林を作って、次の代に手放すときには、相続税という表彰状が重くのしかかってくる。 相続税を払えないとなると、木を切って売ってもたいして金が残らない。周りの目もあるため植林もしなければならない。 国の進めている50年サイクルで進めて回していったとしても、50年ただひたすら固定資産税を払っていくという負の連鎖がずっと続いていく。これをなんとかしていきたい。</p> <p>④水道料金 中山間地の山林所有者は、水道水を山から引いてくる。山林所有者から水を引いてきて、その山林所有者も自分のところから出た水道料金を払っている。</p> <p>⑤害獣被害 私はわずかな面積だが、木を植えている。毎年シカに食われたりする。何回やっても（追い払っても）来る。まわりを鉄パイプのようなので囲ったりすればよいのだろうが、それもできず害獣に食われる。前から続いている。</p> <p>⑥害虫 ナラ枯れの件。山林所有者の負担になっていて、よく「家の裏で枯れている木があるから切ってくれ」とか言われる。 それを森林所有者の責任で、森林所有者の負担で切るとなると、危険伐採なので、かなり高額になる。その辺のことを考えていただきたいと思っている。</p> <p>●提言</p> <p>①利用間伐における所有者に還元できるような施業の見直し 利用間伐するときは、事業者に頼むと、山林所有者にほとんど儲けが入ってこな</p>	<p>(事務局)</p> <p>固定資産税は市税になっている。相続税・譲与税は国税。税は税で納税の義務はあると思うが、森林に関しては、ある程度の補助なり、森林環境譲与税の部分で森林所有者に還元される仕組みになっていると考える。それが足りないとか、不足あるいは補助の仕組みがこうだよ、というのは確かにあるかもしれない。</p> <p>先ほど、農業の会議（農業振興ビジョンの策定委員会）中でもあったのだが、自分たちが生産したものが、価格は据え置かれている。経費となる資材の分は高騰している。この差分は埋まりそうがない。埋める努力をするためには、生産物の価格を上げなければならないという話になり、どこに行っても流通の話になるのかなと思っている。その仕組みは、我々では何とも言えないところがあるので、そういった仕組みを変えろとか、変えなければならないというのは、提言でいいのかもしれないが、そういったところをどのようにしていけば良いかという知恵を出したいなと思う。このビジョンにおいて。</p> <p>なので、いろいろな意見があつてよいと思うし、こういったところが問題だよねと、改善できるよねと、というような形になっていければよいなと思っているので、ピンポイントで、固定資産税を無税にしろとか、というのはちょっと、なかなか難しいなと思っている。</p> <p>おっしゃった5つないし6つのポイントは、まずは、林業の所有者のことを考える分、それを管理する方々がだれなのか、こういった立場なのかとか、それを搬出して利用するあるいは価値として付加価値を付けるものもある。その中に先ほどあった水とか特用林産物とかいろんな部分も林業のビジョンの中に入ってきてしかりだと思っているので、そういったところも考えながらいければなと思う。</p>
--	--

い。ちょっと聞いた話ではあるが、事業者の作業の場を提供しているだけだと。これをなんとか山林所有者が収入を得られるような政策をとってほしい。

少しでも恩恵がないと 山林所有者もモラルは低くなるし、俺には関係ないよっていう非常に寂しい森林が増えるのではないかと考える。

②水道水利用山林における所有者による環境整備の推進

水道水に関しても、所有者に何か還元できるような政策をとってほしいと考える。

③危険なナラ枯れ箇所における公的機関での撤去

ぜひとも、危険なところは公共機関で少し補助していただきたい。

④害獣被害の防除

難しいところもあるが、これもなんとか政策としていただきたい。

<委員>

●固定資産税

海は固定資産税を取られないのに収入がある。山は国土の保全とか、水源涵養から、保健休養から、いろいろなエネルギーもそうだし、木材も非常に多様なものを提供しているのに、固定資産税をとられるのはおかしいのではないかと考えていた。私もそのとおりだと思う。

水の供給、空気の供給にしても 人が生活していくのに欠かせない部分だと思う。かなり難しいところだと思うが、皆さんもそういったところを考えながら施策を出していただければと思う。

<委員>

●施業の見直し

施業の仕方によって補助金の出し方（が変わる）というか。いろいろ施業があつてよいと思う。施業の仕方によって搬出の経費とかが変わってくる。

この会社は「こんな施業でこのくらい出せる」とか、「こっちはこんな施業で大量にできるんだ」とか、その施業の仕方についてもビジョンとして考えていくのもよいのではないかなと思う。

(事務局)

カスケードという話の中で、一本の木なり、一つの山なりの利用の仕方というのは、それぞれの業種の人が見れば「これしか使えない」「こっちは利用できるけど」一方では捨ててしまうとか。これをみなさんが手を組んで、同じようなところで土俵があるのかもしれませんが、いろんな役割をもたせることで、山の価値があがっていくところもあるのかなと考える。

ただ、見てのとおり宮古市内の山林は急

所有者も選べるとよいのではないか。こうゆうやり方でやってほしいとか、こっちはこうゆうやりかたでやってほしいとか。形としては一つだけではないし、カスケードで出したくても、そんなに長いものは出せないし、搬出とか施業の仕方とか、いろいろあって良いのではないか。大型機械を使って大量に搬出するのもあるだろうし、小さい機械でわずかずつやるのもあるだろうし、その多様な森林施業をビジョンに組み込んでいただければなと思う。私のところはわずかな面積だから小さい規模でやっているが。

峻なところが多いという印象。それでも、（以前話があった）自伐型の部分の、徳島の方は傾斜がもっときついこともあり、その利用の部分については まだ我々が知らない部分もあるのではないかと思っている。

その部分を、宮古の林業はどうしていいかというところに結び付けられればなと考えている。

（事務局）

環境負荷についても考えていく必要があると思う。

ちょっと前まで宮古でも皆伐による林業が盛んに行われてきており、今でも植林されない山が多いなと思っている。そのままではいけないなとは思っている。

特に環境を守るために森林環境譲与税があり、宮古市でもある程度期待している。そうゆうので守っていく必要があるし、それを使って所有者も所得が上がっていくような施策をやっていくべきだと思っているし、意見をだしていただければと思う。

ここ3・4年の間、ご意見いただきながら教えていただきながら、市の補助制度は小規模なところも対応できるようにしようと、国県で補いきれないところは市のほうでやれるようにしているつもりであり、これからもそうゆう方向でやっていかなければいけないと思っているので、ぜひ、そういった部分で意見をいただいて、ビジョンに生かしていきたいと思う。

（事務局）

従来の林業も重要であるが、最近では自伐をやろうという方がポツポツと出てきている状態である。ただ、さすがに自伐で宮古市全部はできないだろうなと思っている。両輪で行くのだろうなと思っている。その中でどちらが良いかを所有者が選べればよいと思っている。

—しいたけ生産について—

<委員>

●生産量

年々3月の気候が温かくなってきており、採れる時期も早くなってきている。それに伴って今年はなんとか平年作以上のものを採っているが、去年は6割作、前の年は8割作であった。毎年平均的に生産量を維持していくのは難しい状況になっている。

●生産者

高齢化により補助金を受領できるしいたけ生産組合が一組合減となった。

●価格

去年は4000円ちょっとぐらいであった。今年6月の農協の方の入札は5000円を超えている。これが、来年も維持できるかなというのがポイントかなと思っている。全農さんに聞いても来年どうなのかなと、みんな経費でやっているの、その分上げざるを得ないのかなとは思っているが、見通しがまだわからないとのことであった。

<委員>

●生産量

増えないと考える。これまで安い市場価格がずっと10年続いていて、コストを下回るような、赤字になるような市場価格しつかないような状態が続いていたので、どんどん辞めていく方が出ていてしまっている。やっている方も、ほだ木の数を増やそうという意欲がわからない価格がずっと続いてきた。そういった中でこれから生産量は増えないと思っている。

全国では、震災直後、3000トン割るということで大騒ぎしていたが、現在は2000トン割っている。14～15年の間に全国で1000トンの生産量が減っている状態である。

菌床しいたけの影響もある。一番大きいのは、震災後に学校給食で干しいたけのはけ先が400トンあったのが一切なくなってしまっていて、全部菌床に移ってしまっ

た。

●価格

生産量が減ってきたから、今、価格が高くなってきたのだろうと思っているが、そういった意味では、辞めずに続けてきた方が、これからやっとなら逆襲できる機会だと思っている。おそらく、これからガンとさがることは無いと思うが、それに合わせて価格が高くなってから生産量を増やそうと思っても増やせない状況がずっと続いていくだろうと思っている。辞めなかった方がようやくコストを上回る市場価格で売れるようになった状況がこれから続いていくという期待をもっている。

原木しいたけの生産量は減ってきたが、ここにきて価格が戻ってきた。商社の方の在庫がなくなったのもあり、今年は期待できるし、さがらないで続いていくことを強く願っている。

●ビジョン

生産量を増やすのはちょっと実現性が低いと思っている。今やっている方が辞めないようにする、今やっている方が少しでも生産量を増やせるようにするような支援の仕方が大事になってくると考える。

<委員>

●ホダ木等の助成

ナラ枯れの影響で、ホダ木原木が手当するのが大変だということがある。

かなり生産に影響しているのかなと考える。

助成金の金額を高くするのもよいし、数量で少しでも出るようにしてもらえればよいと思う。

<委員>

●ホダ木等の助成

ホダ木の助成金は3000本という基準があるが、なかなか高齢化になると、3000本を下回る人も出てくるので、その辺もちょっと考えてもらえればよいと思う。

(事務局)

補助金を市でも出しているけども原木の補助、種駒の補助金、やはり、量・補助額は相対で減ってきているなど見ている。

生産者が減ってきているのだろうなと予測はつくが、田島さんがおっしゃったように、ビジョンの中では維持がボーダーライン、目標値だよとなるのは致し方ないのかなと思っている。

(事務局)

その議論は前もあったが、やはり有効ホダ場、ホダ木、本数は、経営とすればやはり1万5000本というのが昔あったと思う。年3000本で5年間だと1万5000本になるということになっていたと記憶している。経営のボーダーラインではなくて、生産量の維持となると、そういうところにも手をかけるのも考えなければならぬと思うが、やはり所得を上げてもらいたいところもある。

(事務局)

先ほど農業のビジョンの会議があったが、そちらでは、兼業農家とか、それほど販売額が無い農家とかにも、同じに支援するのではなくて、絞って、中心になる若手農家とかに集中的に支援しても良いのではないかという意見も出て、最強農家を作っていく必要があるのだという話になった。

しいたけの場合は、逆にちょっと違うのかなと思う部分もある。意見を聞きながら林業のビジョンの中に生かしていく必要があると思っている。

農林水産大臣賞とか栄光の数々がある

	<p>産地なので、ぜひそれは守っていく必要があると思っているので、基準の見直しとかも含めて考えていく必要があると思う。</p>
--	---